

do.co.mo.mo_japan

建築はよみがえる

日本では、建築は古くなったら建て替えることが当たり前となっていますが、欧米では今も建築は改修して長期的に利用されています。戦前の日本では、建築は今より長く使われていました。現代でも工夫しだいで、日本でも建築を新築同様に使うことが可能です。

伊賀市庁舎（旧上野市庁舎）は、世界遺産で話題の国立西洋美術館の設計者ル・コルビュジエに師事し、その国立西洋美術館の日本での設計の協力や工事監理を担当した建築家坂倉準三（1901-1969）により設計されたモダニズム建築の名作で、DOCOMOMO Japanの選定建築のひとつに選ばれています。また、ICOMOS国内委員会が、城下のまちなみとともに日本の20世紀遺産20選一つに選定しています。

12月1日（土）14:00 伊賀市役所（旧上野市庁舎）見学会
15:30 「建築はよみがえる」

会場 上野西小学校多目的ホール

伊賀市上野丸之内 112

日本のモダニズム建築について	東海大学教授	渡邊研司
世界遺産となった近現代建築	東京理科大学教授	山名善之
再生すれば建築はよみがえる Part1	建築家	平井 充
再生すれば建築はよみがえる Part2	鹿児島大学教授	鯉坂 徹

上記レクチャー終了後ディスカッションの予定です

主催 DOCOMOMO Japan

後援 日本イコモス国内委員会 日本建築学会東海支部

日本建築家協会東海支部三重地域会 三重県建築士会（予定）

希望者には資料を見学会・勉強会において、500円程度で配付する予定です。また、講演内容について一部変更が生じる場合があります。